

法課が主催する第6回国家管轄権外の海洋生物多様性の保全及び持続可能な利用に関するアドホック非公式作業部会に出席国家管轄権外の海域における生物多様性の保全と持続可能な利用の実現に向けた方策に係る議論の最新動向について情報収集を行った。

## 2. 研究開発成果の普及および成果活用の促進

### (1) 研究開発成果の情報発信

研究開発の成果として、以下の発表を行った(各研究領域・センター合計数。論文、誌上発表は印刷中を含む)。

査読付論文	英文: 772、和文: 100、その他言語: 1 (平成 24 年度 英文: 704、和文: 115)
その他誌上発表	英文: 38、和文: 145 (平成 24 年度 英文: 57、和文: 134)
学会発表	国際: 869、国内: 1,039 (平成 24 年度 国際: 1,098、国内: 1,044)

(論文査読付割合: 約 83%)

機構独自の査読付き論文誌「JAMSTEC-R」については、第 17 巻及び第 18 巻を発行した。また、研究交流情報誌として「INNOVATION NEWS」を発行し、機構の研究開発成果を社会に発信し、還元しようとする取り組みを引き続き行った。

トムソン・ロイター社の Web of Science 収録誌のうち、Geo Science 分野における被引用率は、直近の 11 年間で 3,000 本以上の論文を発表している機関としては、国内第 1 位を確保している。

機構に所属する研究者の業績等の情報の積極的な外部公開を促進するため、「研究者総覧」(仮)の構築に向けた具体的な検討を実施した。

学術機関リポジトリの運用を通じて、積極的に外部へ研究開発成果を発信した。総データ数は 20,595 件で、うち機構刊行物を含む 2,472 件については本文データも公開している。

機構が主催・共催するシンポジウムや研究報告会を 計 322 件実施した。平成 25 年度は第 2 期中期目標期間最終年度であることから、中期目標期間中で最も多い開催数となった。

平成 25 年度研究報告会「JAMSTEC2014」を開催し、385 名の来場があった。

### (2) 普及広報活動

成果に関わるプレス発表件数は、過去最高の 33 件を数えた(プレス発表総数: 70 件)。なかでも東北地方太平洋沖地震掘削の研究成果は「Science」に 3 本同時掲載され、話題を呼んだ。また、「しんかい 6500」世界一周調査航海中にはブラジル、トンガの現地メディアに対し、記者会見を行い、海外メディアに対する露出も目立つようになった。併せて、Web メディアや雑誌、TV 番組等への露出が増え、JAMSTEC の存在が広く知られることとなった。(年度計画 a)

ウェブサイトのアクセス数も年間目標を超える 1,064 万件となり、インターネットの速報性・拡散性を重視したメールマガジンの発行も年 25 回(2 回×12 ヶ月+特別号 1 回)行った。(年度計画 a)

また、インターネット放送、JAMSTEC 文書カタログなどのツールを活用し、幅広く情報発信の実績を積んだ。なかでも、初めての試みである Web メディアと協働で行ったカリブ海からの潜航のリアルタイム生中継は 30 万人以上の視聴を記録し、大きな反響を得る結果となった。(年度計画 a)